

# 山口大学 ミニ熟議キャラバン 浮島

## 浮島型Uターン現象の謎を探る

農山漁村の担い手問題が大きな問題となっており、各地でUターン取り組みが行われています。Uターンといえば、定年退職後に地元に戻る傾向が強いのですが、浮島では比較的若い時期に戻ってくる傾向が強いのです。浮島には、この不思議な現象はどうして起こっているのでしょうか。浮島には、人々を惹き付ける磁場があるのでしょうか。そこで、浮島の魅力や悩みについて「熟議」を行いたいと思います。いつも顔を合わせている島民と浮島が初めてという山口大学の教職員や学生とのグループで、ウチ側とソト側の目線を交差させてみませんか。

### <プログラム>

- 14:30~14:40 **ご挨拶** 平野和生（浮島在住）  
富平美波（山口大学エクステンションセンター長）
- 14:40~14:50 **解題「何が謎なのか」**（周防大島町在住 中尾豊樹）
- 14:50~15:00 **発表「浮島再発見」**（小学校教員 交渉中）
- 15:00~17:00 **グループ熟議**（各グループに分かれて意見を出し合います）  
（休憩含む）  
テーマは、「①子供の教育」「②漁の魅力と悩み」「③高齢者福祉」  
「④島外から来られた方々からみた浮島」です。
- 17:00~17:30 **各グループの発表、講評**  
※お子様連れも歓迎いたします。なお、終了後に交流会を予定しています。

熟議とは、協働を目指した対話のことをいいます。多くの当事者が集まって、課題について学習・熟慮し、議論をすることにより、互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、解決策が洗練され、施策が決定されたり、個々人が納得して自分の役割を果たすようになるプロセスです。

日時：2012年**8月26**日(日)14:30~

場所：江ノ浦漁村センター

主催：山口大学エクステンションセンター